

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101133		
法人名	社会福祉法人さわやか会		
事業所名	グループホーム昇陽館		
所在地	山口県下関市長府黒門南町6-54		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町受理日	令和3年6月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年はコロナウイルスの感染拡大防止に伴い、ほぼご家族を含め、外部との関わりが、ほとんど取れない状況でしたが、その分事業所内の季節の行事、交流会などに力を注ぎ、入居者様に楽しんで過ごして頂けたと思います。ただ残念なことに、4月の下関市からの監査で、心理的虐待の認定を受け、現在、是正計画に基づき、事業改善の最中です。基本に立ち返って、介護業務はもちろん、事業運営等を全般を見直し、入居者生の笑顔あふれる“家”として過ごして頂き、そしてご家族様にも安心してお預け頂けるグループホームとして再出発中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中でも、電話で家族との会話を楽しんでもらわれたり、面会は事前予約制で、所定場所で1日15分、2名までの面会や面会者の健康状態についての質問と検温、マスク着用の厳守の下で実施されている他、同じ敷地内施設に入居されている配偶者と居室や多目的ルームでお茶を楽しめるように支援されるなど、家族との関係継続のために工夫して取り組んでおられます。ベランダのプランターで、利用者と職員が一緒に季節の花を育てられて、季節を感じられる支援に取り組まれたり、事業所行事に合わせた2ユニットの交流会を企画され、バレンタインパーティーではチョコボンデュに挑戦されて、利用者から「また、食べたいね」と喜ばれたり、利用者全員が参加され、一人ひとりのできることを活かされた企画を職員が考えられて、クリスマスリースづくりや書き初めなどをしておられるなど、外出できない状況にあっても、利用者が活躍出来る場面をつくれ、張り合いや喜びの有る日々が過ごせるように支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表紙のアピールに書いた通り、監査以降に既存の事業所理念を見直し、新たな理念を出勤簿置きの前に掲げ、捺印と共に3度唱えて職場に入るようにしている。	事業所理念を見直し、新たに「目配り、気配り、心配りを大切に、安心して楽しく、入居者のその方らしい暮らしを24時間見守ります」という理念をつくり、事業所内に掲示し、出勤時に職員一人ひとりで理念を3回唱え、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この1年運営推進会議を開催できず、地域とのつながりは希薄です。コロナ収束後、会議を再会する所から交流を再構築していきます。	法人として自治会に加入し、長府地区町づくり協議会のメンバーとして出席している。昨年度の法人の夏祭りは中止となっているが、事業所の夏祭りは実施し、利用者を楽しんでいる。散歩時やゴミ出し時に出会う地域の人と挨拶を交わしているなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての支援は特にはない。法人として、介護職員初任者研修を開校する際は認知症の理解の項目の講師を引き受けるようにしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価のたびに、忙しさの中で見失いがちな地域密着型サービスのあるべき姿を再認識させられる、大切な機会として取り組んでいます。	管理者とケアマネージャーは、職員に評価の意義や評価項目の説明をし、自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、意見を集約して、管理者とケアマネージャーが中心となり取りまとめている。評価を活かして具体的な改善に取り組む工夫や運営推進会議の地域メンバーの拡大など、改善に取り組むまでには至っていない。	・評価を活かして具体的な改善に取り組む工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この1年運営推進会議を開催出来ていませんが、入居状況や行事の実施の様子、介護事故の分析等を公表し、事業運営全般に対してご意見頂き、事業改善に活かせる貴重な場と考えています。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の現状報告、事故・ヒヤリハット報告して、意見交換や情報交換等をしているが、意見や提案はでない。運営推進会議は2月以降は開催していない。	・地域メンバーの工夫 ・運営推進会議の開催

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、下関市介護保険課による行政指導に基づき、業務改善に取り組んでおり、2ヶ月に1度は事業者係の担当者によるモニタリングを受けています。	市担当者とは、改善内容を相談したり、疑義のある場合は質問をし、情報交換をしている。地域包括支援センター職員とは、法人として月始めに前月の利用実績を届ける際に情報交換をしている	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束を必要とする入居者様はおりません。3ヶ月に1度以上の身体拘束禁止委員会と半年に1度の研修を実施中です。	「身体拘束廃止委員会」は年4回開催している。身体拘束についての研修は年2回、事例検討、車椅子のベルト、徘徊への正しい対応について実施している。スピーチロックについては職員間で話し合う他、管理者やユニットリーダーが指導している。玄関は施錠しているが、外出したい利用者とは職員と一緒に散歩に出かけたり、気分転換の支援をするなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市による虐待認定以来、「虐待の芽チェックリスト」を3ヶ月に1度実施、集計し、コメントをつけて全職員に結果を公表している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で行っている現任者研修で学ぶ機会を作っている。入居者様の中には、生保の方や、後見人、補佐人さんをキーパーソンとしている方もおられるので、事情に配慮した対応を心掛けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きには十分な時間をとるため、ご家族のご都合に合わせて日付時間を決めている。管理者の社用携帯に電話でも、メールでも質問があれば連絡して頂ける手段を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	このたびの指導を受け、苦情・相談マニュアルを改訂し、事業所内で苦情対応の周知徹底を図る取り組み中。	苦情、相談受付体制や処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。昨年度、苦情、相談マニュアルを改訂し、苦情の周知徹底に取り組んでいる。面会時や電話、家族アンケートなどで家族の意見や要望を聞いている。家族の要望から、小口預り金の扱いについて、システムの改善を図っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1度、「お仕事シート」アンケートを使い、それを元に職員面談を実施。それとは別に毎日の日報の中で、困り事相談や意見表明も可能。その都度、話し合いの場を設けるようにしている。	ユニット会議や日報、半年毎の「お仕事シート」アンケート、日常会話の中で職員の意見や提案、相談があり、その都度、個人面談をしたり、話し合いの場を設けるようにしている。職員の意見から業務日誌を改善したことによる連絡事項、記録、申し送り等が正確に伝わり、反映されるようになっている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の会話やと日報等で職員の気持ちや仕事に対するモチベーションを押し量り、それに相応しい状況になれるよう環境整備と待遇改善を図っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の法人内部の現任者研修に参加し、レポートの提出により習熟度を見ている。 また、外部研修への積極的な参加を促し、全スタッフへ伝達する事でスキルアップを図っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。認知症介護実践者研修に2名受講している。受講後は復命書で報告している。必要に応じてミーティング時に報告して、共有している。月1回、法人の現任者研修(職場のメンタルヘルス、感染症対策、浮上災害対策など)を受講し、受講後は研修レポートを提出している。新人研修は、法人主催の3日間のリモートでの研修を受講し、受講後は日常業務の中で、管理者や先輩職員の指導の下、働きながら学べる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口グループホーム協会に属し、必要に応じて意見交換を行い、地区ごとにある研修にも極力参加するよう努力している。管理者が以前働いていた同業他社のグループホームとは連絡を取り合って状況を共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しては、極力ご本人の不安がないシチュエーションを家族と相談し、入られた後は、時間をかけて納得し、落ち着かれるのを待つようにしている。必要に応じて、ユニット内の表示や、レイアウトをその方に合わせて変更している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後1週間程度は、ご家族への情報提供を毎日行い、安心して頂くと共に、ホームとしてもご本人についての分からない事をご相談させて頂き、信頼関係を構築している		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	周辺症状での生活継続困難事例等、家庭事情や状況に合わせた対応を心掛けている。入居中の茶サービス利用の実績なし。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の残存能力や、意欲に応じた声かけ、介助により、ホーム生活で何らかの役目を担って頂けるようサービス内容を工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の精神状況、健康状態を発信することにより、必要に応じて受診や面会の場をセットしたり、電話で話してもらうようにしてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診はなるべく主治医のいる医療機関を継続して頂き、家族対応が出来ない場合は施設で対応している。馴染みの理容室がある方は、ご家族と出かける機会を優先している。	家族と電話での交流を勧めている。面会は事前に予約し、1回15分程度で、人数は2名までとして、事業所内で場所を設置し、健康状態の質問、検温、マスクの着用を厳守して実施している。事業所だよりの行事写真等、例年よりも回数を増やして、家族に送付している。利用者が同じ敷地内施設に入居の配偶者の居室や多目的ルームでお茶を楽しんでいる他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おひとり一人の好みや相性を把握し、日常生活で馴染みの関係を大切にする一方、レクの時などは職員が間に入る形で入居者間で新しい関係が出来る工夫をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それぞれの事情で退居になった方の様子をキーパーソンにお尋ねして必要に応じて対応している。入居中の写真データの提供等相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	第一義的にはケアプランの本人の希望を大切にサービス提供を行っているが、その日、そのときの気分や希望を優先して対応に努めている。朝起きる時間や食事の時間など、許容範囲の中で柔軟に対応している。	申し込み時の本人、家族の面談、聞き取りや入居前のケアマネージャー、施設、医療機関からの情報提供を受け、フェスシートにまとめている。日々の関りの中での利用者の気づき等は、介護記録や申し送りノートに記入して、思いイエイ校の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の様子や言葉から職員間で話し合っている他、家族からの情報を得て、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時にご家族、関係者様から聞ける範囲で、入居に至る経緯を聞かせて頂き、入居後の生活の課題解決が早期に図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の精神状態、体調を把握し、それに合わせた対応を行っている。特変ある場合は家族、主治医への連絡等の対応を迅速に行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成によるモニタリングに加え、入居者様の状態の変化がある場合、介護職、計画作成担当者、ケアマネ、管理者でケアカンファを開き、サービス内容に変更が必要な場合は家族に了承を頂き、ケアプランの変更を行っている。	月1回のミーティング時に利用者全員のケアカンファレンスを実施し、ケアプランに活かしている。計画作成担当者と利用者を担当している職員、管理者で、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回のモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた時には、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様別の介護記録を付けると共に、特変ある場合は申し送りノート等で情報を共有、月1度はミーティング時に全員のケアカンファを実施、ケアプラン見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度発生するニーズに対応するよう心掛けています。例えば、定額給付金の受け取り手続きの代行なども行いました。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前には、海遊館の見学に出かけたり、亜樹には長府高校の生徒さんと焼き芋交流会を行ったりしていました。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前からの医療機関との繋がりを大切にしている。ご本人、家族の了承があれば、当施設に往診に来て頂いている医療機関の紹介も行っている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、月2回の訪問診療を受けている。本人や家族の希望するかかりつけ医の受診や他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は申し送りノートに記入して職員間で共有している。家族には電話や面会時に報告している。週3回、訪問看護師による利用者の健康観察を実施している。緊急時には訪問看護師に連絡して、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が入居者様の特変、気づきがある場合は看護師格のある職員(2名在籍)か訪問看護事業所に連絡して指示を受ける体制がある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関への訪問は現コロナ禍は自粛しているが、病棟の担当看護師、相談員とは電話等で連絡を取り、様子を聞いている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の施設対応を、入居時にご家族にはお話して署名を頂いているが、個々のケースで状態変化が有るたびに、家族の意向と主治医の意見、当施設で出来ることを勘案して対応している。	契約時に事業所ができる対応について本人、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聴き、主治医や看護師、関係者で話し合い、医療機関や他施設への移設等を含めて方針を決めて共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ケアプランに想定されるリスクを明記し、サービス提供の着実な実施によりで事故防止を図っている。事故に備えマニュアルを整え、事故対応の研修を行っている。事故発生時の初期対応をフローチャートとして貼出している。	事例が生じた場合は、その場にいた職員が転倒、転落、事故報告書に発生時の内容、対応策などを記録し、全職員が閲覧し、ミーティング時に改善策について話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。現在「介護事故防止」や「緊急時事故対応」の各マニュアル改訂に取り掛かっている。事故発生時の初期対応をフローチャートにして張り出しているが、今年度は初期対応訓練は実施していない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行うとともに、職員ひとり一人の役割分担と避難手順を明白にした災害時対応マニュアルを活用して、緊急事態に備えている。	法人合同で集中豪雨による土砂災害想定での避難訓練と昼夜想定での火災避難訓練を2回実施している。法人施設内の連絡網は作成している。地域の人に参加を呼びかけているが、協力を得るまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんを「～様」と呼ぶことから、言葉全体が丁寧になるよう心掛け、接遇の研修も法人として行っている。居室清掃やシーツ交換時には1階1階断りを入れたり、立ち会ってもらうよう心掛けている。	法人研修で学び、利用者を人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。法人として環境、接遇委員会を設置している。毎月の重点目標を策定し、目標達成について話し合いをしている。個人記録などの個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務について徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや訴えを傾聴し、自己決定ができるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お1人お1人の生活スタイルを把握し、入居者様のペースで生活できるよう努めている。また、業務内容が職員主体になっていないか、定期的に見直しを行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔面、季節に合ったコーディネートに配慮しつつ、本人様に出来る限り服を選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人様に合った嗜好や食事形態を常に検討し、本人様のペースで食事を摂って頂ける様、努めている。出来るところは、一緒に食事の準備や片付けも行っている。	食事は、三食とも法人の厨房からの配食を利用している。ご飯は事業所で炊いている。利用者一人ひとりにあった嗜好や食事形態を常に検討して、本人のペースで食事ができるよう配慮している。利用者は食事用ワゴン車の受け取りや返却、米砥ぎ、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、下膳など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食卓で会話を楽しみながら食事をしている。夕食時にノンアルコールビールの提供、おやつづくり、季節の行事食(おせち料理、節句のお寿司、うなぎの蒲焼、そうめん流し、年越しそば、雑煮など)、バレンタインパーティーではチョコフォンデュに挑戦し、利用者から喜ばれているなど、季節料理に合わせて新しいものを作るよう挑戦している他、同じ敷地内施設に入所の配偶者と居室や多目的ホームでティータイムを楽しんでいるなど、食事を楽しむことが出来るように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を記録し、入居者様の健康面や生活面に配慮した適切な量を摂取して頂ける様、対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、本人様に合った方法で口腔ケアを実施し、口腔内の健康管理に努めている。必要に応じて、訪問歯科の診療により支援を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを把握することにより、トイレ誘導を定期的に行い、排泄用品の使用量を抑えたり、自立の方でも定期的な声掛けにより、失敗の回数を減らし、トイレで用を足せるよう支援している。	排泄チェックシートを活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや関わり方の工夫をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最後の排便日から日数をカウントし、トイレ誘導のタイミングを多くしたり、毎日の体操や、歩く時間を増やしたりと体調に合わせた介助を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	便宜上、入浴日はそれぞれ決めているが、希望があればいつでも入って頂ける対応に努めている。また拒否がある場合は時間をずらしたり、曜日を変えて入局介助を行っている。	入浴は毎日、13時から15時までの間可能で、週3回は入浴できるよう支援をしている。利用者の希望する時間、順番、湯加減、好みの石鹸を使うなど、入浴が楽しみになるよう支援している。利用者の体調に応じて清拭、シャワー浴、足浴等の支援をしている。入浴したくない人には無理強いをせず、時間の変更、職員の交代、言葉かけの工夫をするなどして、対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方や夜の睡眠状態を把握し職員間で情報共有することで、入居者様の体調に合わせて日中でも休んで頂いたり、日中の活動量を増やしたりするなどの支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬管理はもちろん、薬の作用を観察し、主治医へ情報提供を行っている。往診時に、処方の変更があれば、服用開始後の様子を主治医にフィードバックを行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備片付けや、室内清掃をご自分の役目と捉えてらっしゃる方の支援やベランダの花作りを喜ばれる方には、一緒に作業をして頂くようにしている。ノンアルコール飲料が好きな方には夕食時に提供するようにしている。	テレビ視聴、日記をつける、雑誌や本を読む、写真集を見る、習字、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、歌を唄う、レース編み、なぞなど、しりとり、カラオケ、かるた、トランプ、ボール遊び、紙相撲、ラジオ体操、リハビリ体操、口腔体操、四文字熟語、計算ドリル、食事の準備、片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、プランターの花づくり、水やり、草取り、ゴミ捨て、夏祭り、敬老会、クリスマス会、クリスマスのリースづくり、餅つきなど、利用者全員が参加して、一人ひとりの能力を発揮できる他、達成感を味わえる企画を考えているなど、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	まずこの1年間は、受診以外の外出は出来ませんでした。外出については、計画性を持ち、家族の事前の許可をもらって実施するようにしています。	コロナ禍のため、その日の希望に沿って、戸外に出かけることは難しいが、事業所周辺やベランダで海を眺めながら散歩を楽しんでいる他、ゴミ出しに利用者と職員が一緒に出かけている。ベランダのプランターで季節の花を育て楽しんで、家族の協力を得て、馴染みの美容院に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持の大切さは十分理解しているが、ご本人、ご家族の希望によりグループホーム事務所で小口現金としてお預かりし、雑貨、お菓子等の訪問販売時には自由にお金を使って頂けるようにしている。毎月残金は家族に書面で報告している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な手紙や写真はいつも居室で眺められるようにラミネートして壁に飾っている。コロナ禍の中なかなか、面会が出来ないので、時間を示し合わせて、施設の電話を使って会話を楽しんで頂いたりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の廊下に面した全面ガラスの扉には、外を行き交う人の姿が刺激になり過ぎないように、レースのカーテンを引いたりしているが、ユニットの入り口、玄関らしく生花や季節の小物を飾るなどの工夫をしている。	共用空間はゆったりと広く、リビングから続くベランダに出ると、関門海峡を行き交う船や向かい合う北九州の風景を眺めることができ、夕日の風景も楽しみとなっている。室内の温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールは食卓スペースと海に面したリビングスペースに分かれ、ゆったり思いのままに過ごすことが出来るようになっている。天気が良ければ、戸外のベランダを海を眺めながら、散歩することも出来る。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼット以外の家具等は身の回りにあった使い慣れた調度品をお持ちになるようおすすめしている。	テレビ、座椅子、小ダンス、衣裳ケース、鏡、時計、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる他、自作のクリスマスリースや誕生日カード、家族の写真等を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事仕事や園芸他の「できる事」を維持する為に全スタッフで支援している。居室はプライベートゾーンとして確立しており、仲の良い方とお茶を飲んだり出来る。施設も内側から可能。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 昇陽館

作成日: 令和 3 年 6 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	コロナ禍の中、令和2年度は、1回しか運営推進会議が開催できなかった現状がある。	令和3年度はこれまでの会議メンバーに2ヶ月に一度を目途に入居状況、日常の生活の様子報告、事故発生状況などをパンフレット形式にまとめ、発信していきます。合わせて意見照会を行い次の情報発信の機会に頂いた意見と事業所としての答え、考えをフィードバックしていきます。	内容ごとに責任者を決め、その責任者のもとに職員を配置し、持ち回りで編集を担当してもらいます。	半年
2	35	緊急時の対応に備えた取り組みを決めてはいるが、実際、事故等発生時はあわててしまうのが現状	一人一人が落ち着いて初期対応できるようスキルアップしていける。	緊急時対応研修の定期的な実施と、年2度ある避難訓練時に、消防によるAEDのデモンストラーションの学びを取り入れる。	1年
3	36	災害対策として、事業所内の訓練等は実施しているが、以前あったような地域の協力がどこまで得られるのかはわからない。	地域町内会との関係を再構築し、年2回は地域の代表にも避難訓練に参加して頂く。	法人の主催の夏祭りはじめ、催し物への参加の呼びかけを改めて行い、関係強化に努めていく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。